

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |                      |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------|
| 会議名  | 令和6年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 開催日 | 令和7年1月16日(木)         |
|      | 第2回台東区立図書館に関する意見交換会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 時間  | 午後7時～8時30分           |
|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 場所  | 生涯学習センター501コンピュータ研修室 |
| 出席者  | 大串夏身委員長(昭和女子大学名誉教授)<br>野末俊比古副委員長(青山学院大学教授)<br>田島大輔委員(公募区民)<br>松尾敦委員(台東区立松葉小学校校長)<br>足立祐子委員(台東区立富士幼稚園園長)<br>山藤弘子委員(台東区社会教育委員)<br>三瓶共洋委員(台東区教育委員会生涯学習推進担当部長)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |     |                      |
| 配布資料 | 事前配布資料<br>【資料1】台東区子供読書活動推進計画(第五期)案<br>【資料2】子供読書活動推進計画 パブリックコメント実施結果<br>【資料3】中央図書館リニューアル後の多文化共生に関する取組について<br>【資料3別紙】多文化共生コーナー移設<br>【資料4】検討事項について<br>【当日資料】電子図書サービス等の導入について①<br>【当日資料】電子図書サービス等の導入について②                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |                      |
| 内容   | 1. 開会 配布資料の確認<br><br>2. 議事<br>(1)台東区子供読書活動推進計画(第五期)について<br>○資料1・2について、事務局から説明<br><br>【委員長】<br>ただ今の事務局の説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。<br><br>【委員】<br>今回計画を策定させていただいたが、前提として、来年度から足掛け2年間にわたり図書館が休館になるという状況の中で5ヵ年の計画を立てるということで、非常に悩ましい点があった。<br>休館中は縮小することもあると思うが、それを踏まえたうえでの計画にすべきと判断し、皆様に案のご提供をいただいている。<br>今後、休館中も、我々のミッションとしては読書環境を提供するというようなことがまず1点。<br>それを計画的に進めていくと、リニューアルした際には、新たな取り組みなども考えられるため、例えばこの休館中の代替的な対応というものが、リニューアル後にも活かされるということのほうが、経費的にも、行政サービスのにもよろしいのではないかとこのところの視点を持って検討を進めてきた。<br>具体的には、休館中の対応として、読書環境を維持するために電子図書館、これは図書館がなくてもご自宅のほうで見られる。<br>これはリニューアルしてやめるということは時代の流れからしてないので、リニューアルしても活かされるだろうと思う。<br>また、例えば、まちかど図書館というものがある。<br>そこについても今回の休館で、子供たちが少しでも読書できる物理的な環境を維持したいということで、2ヶ所の拡充を図る。<br>これは庁内的には、休館中の対応というような仕組みからスタートしているが、一度拡充したものをまた元に戻すというのは考えにくいので、リニューアル後も拡充をした規模を維持したいと考えているところである。<br>そうした考えの中で計画を策定してきたので、そういった視点でご覧いただければと思う。 |     |                      |

【委員長】

その時、職員の方はいるのか。

【事務局】

職員はいる。

休館中においても、リクエストや23区の相互貸借作業、事業も縮小しながらもやっていく。

また、臨時窓口を作ろうと思っているため、そこで貸出・返却などの作業も行う。

【委員長】

パブリックコメントにも出ていたが、メールを使った質問と回答はやるのか。

【事務局】

レファレンスについては、Webレファレンスも引き続きやる予定。

ただし、レファレンス本も倉庫に一部入れてしまう関係で、台東区のレファレンスに限っては必ず継続してやるということになる。

【委員】

休館の間に、職員の方たちに向けた「やさしい日本語」の研修実施など、多様性を理解し、取り入れた上でのリニューアルというような充電期間になればいいと思う。

新しくオープンするときに、いろいろな工夫をされているのも今回拝見したので、多言語化するだけではなく、そういった方たちが来たときの対応、プラス住民同士をつなげるような存在になっていただければありがたいし、何かお手伝いできるようならお願いしたいと思う。

【委員】

計画ということなので、資料としてはこうなのだろうとは思っているが、特に評価書がきちっと定義されてるのはいいかと思う。

休館も含め、目標値は11年度末の数字が書いてあるだけだが、この5年間の間にどこまでブレイクダウンが計画されるのか。

PDCAを回すように、年度ごとなのか2年度ごとなのか、各施策の大きさが違うので、細かくはわからないが、評価値も目標も、ブレイクダウンした計画を立て、それと比較してうまくいってるのかいってないのかというのもあると思う。

施策も多いので、おそらくこの中にも優先順位があると思うが、優先順位が高いものだけでも、そういう細かい計画を立ててやるとか、せっかくここまで大きな良い計画ができているのであれば、実行のところに向けた対応というのをぜひやっていただけないかなと思う。

特に2年間休館ということであれば、より意識してプランを立てないと、その前と後でギャップがかなり大きいはずなので、そういうところをぜひプランして、実行に活かしていくといいと思う。

【事務局】

計画については、1年ごとに各課から進捗状況を出していただき、その経過を確認するという作業はするので、その中でまた今後の対策について検討していければと考えている。

【委員】

外れてもいいので目標を立てたほうがいいと思う。

実行することだけが目標だと、出た結果を評価できない。

職員の方も、1つの基準になると思う。

精緻でなくてもいいが、その目標を立てて見ていくといいと思う。

【委員】

ご意見はごもっともであろうと思う。

目標を立てることが大事だし、成果として帰結したのかということ进行分析するというのは、計画を実施する本質的な意味がそこにあると思う。

各事業単位では毎年行政評価というが、そういったことを各課で行っている。

計画の成果物としてはこういう表記になっているが、各年度の実績やいただいた意見については、この会の中でお示しすることは可能であり、そのやり方も含めて対応できるところは、対応していきたいと考えている。

【委員】

途中経過を聞かせていただけるのは、少しでも関わった身としては嬉しいと思う。

【委員長】

計画を見ていると、例えばまちかど図書館の運営・おはなし会・読書への興味など、休館と関係ないものが結構ある。

また、昔より職員が減らされている中、休館の間に少し人の余裕ができれば、こちらにまわしていただくといいのではないかと個人的には思うが、そうすると拡大したサービスがあとでどうなのかという問題も考えなければいけない。

いずれにしろ、休館の間、そういう理解で我々は話をしていきたいと思う。

【副委員長】

2点だけ。

1つ目は、アクティブラーニングルームが仮称になっていて、子供たちの声を聞いて決めるというが、とてもいいと思う。

名称は大事で、行ってみようかなと思えるような、当事者にうける名称を考えていけばいいと思う。

それと同じ意味で、中高生ボランティアはボランティアという言葉でいいのかとか、電子図書というのはいかにも硬いが、実際に展開するときに、より親しみやすい、広く刺さるようなものを工夫していくといいのでは、という感想を持った。

2点目は、先ほど出ていたことに近いが、この事業の中に軽重があると思う。

もっと言ってしまうと、読書活動の推進に効果の高い事業と、そうでもない事業が入っていると思う。

少なくとも図書館が管轄してる部分について、優先順位と言うのか、力の入れ具合と言うのか、順位づけをしておくといいと感じた。

【委員】

No.1,2のあかちゃん絵本タイムや読み聞かせ支援というのはとても大事で、園に3歳で入ってくるときに、すでに絵本をたくさん読んでもらっているお子さんと全く触れてこなかったお子さんと、二分化されているという現状があり、まずは子育てを始めた保護者たちが、行ってみようかなやってみようかなと思う事業があると、そのあとに続いていくと思う。

中央図書館が休館の間はどこでやるのか心配しているが、地域として身近に図書館がある環境、ベビーカーでぶらっと行ける位置にあるということがとても大事かと思うので、休館中、まちかど図書館なども役に立つのかなと思う。

また、「ふれあいブックデー」の名前がとてもいいと思い、先ほど言われたように、名前は本当に大事で、わくわくするような子供の居場所になるところになるといいなと感じた。

行きたくなってしまうような図書館がここにまた新しくできたらいいと思うし、今ある図書館がそういうふうに工夫されていくことも期待したいと思っている。

【委員】

中央図書館は区のほぼ中央に位置するということで、多くの小学校がこの図書館が一番近いと思う。

図書館で勉強する子もいるが、スペースがどこかに確保されるとありがたい。

今よりも遠くがよく知らない町の図書館に行ってみようかというのはいさし心配がある。

また、電子図書というのは、例えば、教育の現場でもデジタル教科書を推進しているが、やはり手に馴染んだ本でどこに何があるというのがすぐに出てくるのは、紙ベースの本の一番の魅力だと思う。

電子図書にももちろんいいところはあるが、頭への入り方が違うと先進国の取り組みからも出ているようだ。

デジタル教科書は紙の教科書と併用して、補助資料的な形で扱うと効果が高まるというような話も出ている中で、No.13の電子図書の活用という事業は、大変魅力的ではあるが、子供の本離れを助長しないかということが若干心配ではある。

目標を持ってやっていただける中で見えてくる実態も、紙の本から離れていくのが見えた場合に、大きく修正をかける、或いは、運営の仕方を工夫するなどして、電子図書をきっかけに紙の本を読むなど、本当にいいと思った本は、借りて家で読んでみようというふうに促すなど、そういう工夫もしていただけると、子供たちにとって本当に必要な力をつける役に立つのではないかなと思う。

また、事業が大変多いので優先順位をつけるというご指摘も最もだと思う。

職員の人数も減らされている中でこれだけの事業をまわしていくのは本当にご苦労だと思うので、ぜひ、職員のワークライフバランスも大事に考えながら進めてほしい。

**【委員長】**

今回の計画の中でパブリックコメントを読むと、特に小さな子供さんの場合は、どういう本を読ませたらいいのかわからないのでアドバイスがほしいというのがある。

1つは、すこやかとしよしつや、くらまえオレンジ図書館などでも、雑誌や本を、わかりやすく動いて見ていただいて手にとりいただけるような仕組みを作るのもいいし、外部の方を呼んで、例えば雑誌を作ってる編集の方など、新しいものとか、読み聞かせの本のリストだとかそういうプログラムをやっていただくととてもいいのではないかなと思った。

また、今回はできる部分を先行してやって、再開した段階でプラスアルファをやっていくといいと思う。

ただ、42番の区報・ホームページ・CATVなどの広報の充実など、休館していてもできるというものもある。

台東区のホームページは、動画などもいいと思う。

そういったものをどんどん伸ばして、ぜひ充実してやっていただくといいのではないかな。

**【事務局】**

先ほどお話しいただいたまちかど図書館は、蔵前の環境ふれあい館ひまわりの中と、台東保健所の中にある。

どちらも余剰スペースのある場所になっており、所管と相談して少し場所を広げさせていただくところを考えている。

また、あかちゃん絵本タイムについても、休館中も中央図書館ではできないが、いろいろな場所を検討し実施する予定となっている。

紙離れについては、中央図書館としても、あくまでも電子図書はプラスのサービス向上と考えている。

学校にも使っていただきたいと考えており、委員が懸念されているような課題が出てくるかもしれないが、そこは学校と連携していきたいと思っている。

読み聞かせの不安に対しては、計画の中で不安や疑問に対応するような講座実施の事業を立てており、そこで頑張っていきたいと思う。

**【委員長】**

アンケートを拝見すると、漫画の取り扱いについて課題がある。

他になければ、議題の2つ目、リニューアル後の多文化共生コーナーについて、事務局からご説明をお願いしたい。

**(2) 中央図書館リニューアル後の多文化共生に関する取組について**

○資料3・4について、事務局から説明

**【委員長】**

ただ今の事務局の説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

**【委員】**

現在、多文化共生コーナーが設けられているが、多文化共生というのが、外国語コーナーになってしまう。

台東区の外国人住民は9%を超えてきた。

外国語の図書がずらっとある、やさしい日本語の本もずらっとある、これが多文化共生のスポットだ、ということだけではないと思う。

何かもう一超え。

台東区が取り組まなければいけないのは、日本人住民への働きかけ。

日本人住民の多文化共生への意識啓発と醸成を進めなければならない状況に来てると思う。

ここの棚も、外国人の方が来るだけの工夫ではなく、ここに行けば、そういう参考書があるとか、この棚やスペースを通じて交わる工夫をぜひしていただきたい。

表面的な本の配置、図書館の場所の配置でなくても、区民が集う、日本人もここに来るような仕掛け、それを一緒に考えていけたらいい。

どの町でも小学校、中学校、幼稚園でも外国人住民がものすごく増えていて、そういったときに日本人の方もここに来て何かヒントが得られたり、つながれるような工夫を考えられたら、台東区らしくていいのではないかなと感じた。

具体的には、やさしい日本語のものや、ボランティアスタッフのように外国人住民の方にも入ってもらい、おすすめの本や、どういうものを共有したらいいかなど。

日本人からの相談を受けられる外国人だったり、外国人の相談を受けられる日本人だったり。

型にははめず、多様に対応できる工夫が必要な段階だと思う。

新宿区の久保図書館は、全国の中でもかなり多言語の図書館になっているが、久保は留学生が多い。

また、近くの幼稚園も外国人児童が多くなっているそうだ。

その流れから外国語図書もたくさんある。

台東区はもっと日本人と外国人が交わって街づくりなどをして、ここから情報を入れたり、つながったりする工夫をぜひ一緒に作っていかれたらと思う。

#### 【委員】

全国的に外国人住民が増えてるということで、私も今、多文化共生の学級経営についての本の作成に携わっているが、外国人幼児等の保護者を支援するための本や、受入れるための工夫Q&Aなど、そういう本がこの1年間でたくさん出ている。

そういうものもここに揃えていただけると、日本の人も見て、こういうものがあったら受け入れやすいなど勉強になると思う。

また、入園してくる外国籍の人たちの入口になるのが区役所で、転入するときに、図書館にはこんなことがあるというチラシやリーフレットがあれば行ってみようと思うのではないかなと思う。

#### 【委員】

検討事項で①②③とあったのでそれに沿って違う話ができればと思う。

①のところで、利用案内やチラシについて整備するポイントとして書かれているが、利用案内とチラシは目的が違おうと思う。

チラシは、持ち帰ってもらい、こういうことができるということを周知するために配り、より広範囲の方に知ってもらうというのが一番ポイントかなと思う。

利用案内はその場でのもので、よりそのときに合わせた表示が必要ということで、デジタルであれば多言語も自動でも変換できるし、いろいろな言葉で表示できるので、デジタルの力を借りたほうがいいのかなと思う。

②のその他課題については、無料の翻訳アプリで十分だと思うが、こちらから伝えたり向こうが言ったことを認識し日本語にしてくれるようなものを図書館で何台か用意して、そういうことができるということを書いておくだけでいいと思う。

また、図書館登録もオンラインでやると書かれているが、これもデジタルなので、日本語や英語だけでなく、多言語のウェブサイトにしてもらえばいいし、図書館でも、端末で登録できるようにすればいいと思う。

ここは工夫で、キーボードだけでなく、文字認識にすれば、書いたものをそのまま電子化して、変換して登録することもできるので、せっかくLINE連携も含むオンライン申請ができるのであれば、図書館の中でもそれを使えば便利にもなるし、多言語というところも壁が乗り越えられるのでいいのではないかなと思う。

最後に、学校などのところは、実際に台東区に住んでいる方のお話を、学生なり生徒なり児童なりから聞くのが何よりだと思うので、そういう機会を広げてもらうのが一番かなと思う。

#### 【委員】

項番4の(3)の周知については、委員から具体案が出ていたが、区の施策で外国の方が区内に居住した場合に日本語を学ぶ場というものがあると思うので、そういうところでも広報のチラシを配ると手に取る機会が増えるのではないかなと思う。

#### 【副委員長】

先ほどから名称の話ばかり言っているが、「多文化共生」もわかる人にわかるが、わからない人にわからない。

愛称でもいいし、1つの場所に複数の名前がついていてもいいので、行きたくなるような名称、あるいはイベント名やキャッチコピーなど、そういうものがあるといいと思う。

一例を挙げると、大学の例だが、神戸学院大学では「図書館留学」という言葉を使っていて、興味がある人には抜群にいい。

また、先日、鳥取県立図書館に行ったが、地域性のある「環日本海交流室」という名前をつけている。

日本海を中心とした地図が掲示されていて、周辺の国の資料を揃えている。

世界中の資料もあるが、特に環日本海の国のものを揃えている。

なかなかいい名前で行きたくなる。

同じ部屋に名称が複数ある。

付け方と資料の工夫かなと思った。

先ほどから伺っていたことと重なるが、ターゲットがとても大事で、「区民のみなさんどうぞ」と言っても響かないので、かなり絞り込んで、例えば「中国語を学びたい中学生のための初めての中国語講座」とか、そのくらいのイメ

ージでもいい。

初めて中国語を学びたい中学生であれば、そういうコーナーを一個作っておくと、そこに来る。

そうして一つずつターゲットを増やしていくのがよい。

先ほどの鳥取県立図書館は「初めて学ぶモンゴル語コーナー」がとても充実していた。

そこには、日本の方がモンゴル語を初めて学ぶ教科書が揃っていて、なるほどなと思った。

また、環日本海の各国語で、同じ絵本を揃えている。

いろいろな国の言葉で子供がそれに接するので意味がわかり、話を知っているから面白い。

ターゲットにどういう活動をそこでしてほしいかということをも具体的に作って、活動をかなり絞り込んでやっていくことを積み重ねていったほうが結果として広がる。

そこから広げるというアプローチのほうがこういうコーナーは刺さると思う。

先ほどの課題のところだが、ニーズと目的をしっかりしたほうがよい。

利用が少ないのが悪いとは限らない。

また、図書館で全てやるということは無理なので、プロの力と地域の力を借り、詳しい方にアドバイスを受けて、そこに関わる人を増やしていくしかない。

いわゆる協働。

例えば、酒田市は観光の市であるが、成功した英会話スクールがあり、地域に貢献したいということで、図書館に英語の本をたくさん寄付しているが、観光英会話をただで学べるように、その会社が図書館でやってくれていた。

酒田市の図書館では、地域の高校生・大学生、観光協会も一緒になって運営している。

子供たちは学べ、観光協会は人が来る。

人手もあるのでみんなが嬉しい。

このように、地域のニーズ、ここで達成したいこと、関わったらいいなという人を見つけ、一緒にやっていくということの一つ一つやっていけばいいと思った。

話は戻るが、先ほどの読書のところも同じで、子供にまずは紙の本に触れてほしいというねらいであれば、まったく手に取らない子供がいるのであれば、とりあえず、最初は漫画でもいいかもしれない。

漫画は読むけれど活字は読まないというのであれば、最初は読み聞かせや群読から入るとか。

どういうターゲットに何をさせたいかということで絞り込んだほうが刺さる。

朝の読書であれば、とにかく授業の前に静かにしてくれればいいのであれば、漫画でもゲームの攻略本でも、極端なことを言うスマホで何か読んでいてもいい。

読書の能力を身につけたいのであれば、ちゃんとした文章でなければいけない。

ターゲットによって違う。

区分けをしてやったほうがいいというふうに思う。

一部の人たちのサービスでいいのかとよく言われるが、そこから広がっていくので、それでいい。

#### 【委員長】

中央図書館にも多言語の本を置いてあるコーナーがあるが、置いてあるだけでは、あまり意味がない。

人が必要だと思う。

アメリカの図書館に行ったことがあるが、人と接する職員は、みんなボランティアだった。

日本の図書館で残念なところは、本についてもなんでもそうだが、人がついていないというところ。

なので、ここにコーナーを作っても、ボランティアの人が何人かぶらぶらしてるとか、そういうことも必要。

また、昔働いていた図書館では、例えば身分証のようなものを持ってなくても貸し出しをしていた。

特に外国人に多く、地図を用いて住まいを聞き、ハガキを送って確認をした。

そういういろいろな方がいるということを前提に考えていかないといけない。

なおかつ、児童書を使わせて欲しいと言われた。

日本語を勉強したいし、ひらがなで書いてある本を読みたい、なので、そういう方は特に利用していいという形でやった。

ここでも多言語の資料と、日本語のわかりやすく書いてあるような絵本だとか、日常生活に関わるもの、ルールのようなものを一緒に置いておくと、来られた方が自分の国の言葉とか日本とかいろいろな国のもので比べられていいのではないかな。

同じ絵本で各国語揃えるというのは、今度は逆に日本人にもいい。

そういった少し広い視野で考えていただいて、できれば人をつけていただくといいのではないかな。

#### 【委員】

資料4の項番2の①に、より多くの外国人の方に図書館を利用していただけるよう、という文言がある。

これはニュアンスの問題だと思うが、例えば一気に図書館を改造して来てもらうということが本当に実現可能なのかということは少し疑問に思っている。  
今利用されてる方がストレスなく過ごせるという視点が大事かと思っており、外国の方の読書というのはまだ手探りなところもあるので、そういった視点で臨んでいくのかなというところがある。  
また、この生涯学習センター4階に、行政の外国人施策の司令塔となる部署があり同居しているので、そういったところで蔵書なども役割分担するのか、あえて同じものを揃えるのかなど、庁内でよく協議して、きちっと考え方を持って対応していきたいと考えている。

【委員長】

アメリカでは、外国から来られた方は図書館に行く。  
図書館にはそういうボランティアの方がいるので、地域のことだとかいろいろなことを教えてもらえる。  
その辺が日本の図書館と違うところなので、資料だけでなく、そういうことも少し考えていただくことが必要かと思う。  
次に、電子図書サービスについて事務局から報告をお願いしたい。

(3)電子図書サービスについて

○当日資料について、事務局から説明

【委員長】

ただ今の事務局の説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

【委員】

電子図書が使えるようになるのはとても嬉しいと個人的には思う。  
LINE連携については、既存ユーザは使えないのか。

【事務局】

既存の方も使える。  
今まで物理カードを持っていた方もLINEに友達登録をしていただければ使える。

【委員】

専門の方々にぜひ教えていただけたらと思うが、資料の最終ページの統計で、12歳未満が80館となっており、12歳から19歳がその半分ぐらいに減っているという棒グラフがあるが、この傾向というのは、何が要因だと思われるか。

【副委員長】

30、40、50代は、働いてるから多い。  
12歳未満は、小学生なので本を読む習慣があるから読む。  
12歳から19歳の中・高生は本を読まないというのは、全国的に明らかで、どうしても減ってしまうのだと思う。  
20代がとても少ない。  
想像すると、おそらく電子書籍のコンテンツのジャンルの問題ではないかと思う。  
ビジネス書とか小説とか、多分、30、40、50代辺りの人が読むものなので、今の若者たち、大学生から少し先ぐらいが、読むようなコンテンツが少ない。  
おそらくそれが理由ではないかと思う。

【委員長】

図書館側がきちんと宣伝しないというか、読むことを勧めるような、そういったことをほとんどやってないところが一番問題だと思う。  
もっと細かくいろいろな本を紹介をするとか、単に文字でやるだけでなく、音声で案内をするとか、江戸時代の貸本屋のようにおしゃべりでこの本面白いですよとか。  
日本の貸本屋というのは江戸時代にはものすごくあって、とにかくみんなが集まるところに行って本を紹介をして借りてもらうという、本を紹介するという行為が普通に入っている。  
なので、電子書籍便利ですよとか、電子書籍の中身を紹介するようなシステムも図書館側が構築していないと、タイトル数が少ないということだけで終わってしまうと思う。

本を手にとってもらう工夫を図書館もこれから学んで、電子書籍でもやっていただくと、特に20代には20代の感覚があるので、いろいろ対応を考えていただければいいのではないかと思います。  
以上で議事を終了とする。

### 3. 閉会

【閉会后、副委員長より補足】

以前に行った調査のデータを見たが、20代はそもそも本は読まない、図書館を使わない。

それがそもそもの原因かもしれない。

図書館を利用しない、全く利用しない20代が36%、年に1回以下が31%で、約7割が本を読まない、図書館を使わない。

そういうデータがある。

以上